

2021.04.04.

イエスに立ち返る・復活祭（新約聖書：マタイの福音書 28 章）

JD ファラグ牧師

復活祭の日曜日を、御祝いします！皆さん、ご参加してくださることを、とても嬉しく思います。日曜日の朝は、二つの礼拝を行っています。第一礼拝は「聖書預言」に専念し、第二礼拝は定例、節ごとの「聖書の学び」です。しかし、今日は復活祭の日曜日ですので、主が私たちに何をしてくださるのか、とても楽しみです。だからこそ、ご一緒くださることを嬉しく思います。今日の聖書箇所は「マタイの福音書第 28 章」です。その箇所をお開き下さい。もし可能であれば、お立ちいただきたいと思います。私が読みますので、お聞きください。ご無理な方は、座ったままで結構です。1 節から、マタイが聖霊によって、次のように書いています。

マタイの福音書 28 章

1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。

すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったか 2 らである。

3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。

4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

これは恐ろしいです。

5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。

6 ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。

7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。』

8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、(恐ろしさの伴った興奮を想像してください。)弟子たちに知らせようと走って行った。

9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。

10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」

11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

12 そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

13 こう言った。『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。

(はい、ですよ〜。)

14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

(要するに、殺されないよう取り計らう、と言う意味です。)

15 そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。

16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。

17 そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。

18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

ご一緒に、祈りましょう。主よ、ありがとうございます。愛する天のお父様、今日は1年に1度、全世界が何らかの形で、あなたの復活を認識する日です。それが私たちが今日ここにいる理由です。私たちは、あなたの復活を祝うために、ここにいます。しかし主よ、もっと重要なのは、御霊があなたの教会に語られることを聞くために、今日ここに私たちはいるのです。ですから主よ、あなただけが御出来になるように、その静かな、小さな、洗練された声でお語りください。その時主よ、私たちの注意を引き、保ち、気が散ったり、思考が迷わないようしてくださいますように。なぜなら主よ、この特別な日に私たちが共に過ごす時間の中で、私たちのためにご用意してくださった何をも、見逃したくありません。主よ、感謝します。私たちは、あなたをととても愛しています。イエスの御名によって。アーメン、アーメン。

ご着席下さい、ありがとうございました。私は、いつも復活祭の日曜日を楽しみにします。今年の復活祭の日の説教のタイトルを、"イエスに立ち返る (Go Back to Jesus) "としました。これにはいくつかの理由がありますが、その中でも、これがこんにちの世界に対する明確な呼び掛けだと信じます。もしあなたが既にイエス様に出会い、イエス様を知り、イエス様と一緒に歩んでいるのならあなたにとって今日の説教は、イエス様のもとに戻ることです。もしあなたが、本当にイエス様を知らず、あるいは確信が持てないと思っているなら、あなたにとって今日の説教は、直接イエス様のもとへ行くことです。私が、そのように言うのには理由があります。その理由とは、こんにちの多くの人は、イエス様のことは知っていても、本当の意味でのイエス様を知らないということです。もう一步踏み込んで言います。どうかこれについての私の心を聞いてください。こんにち説かれているイエスは、実は、聖書の真のイエスではありません。聖書の真のイエス、それは私を含めた全ての人間が立ち返らなければならない存在で、彼は政治的な所属を持たず、また彼の御国はこの世のものではありません。それが今日、私が話したいイエスです。ある人が適切に言っています。「歴史上最も偉大な人物には、使用人はいなかったが、人々は彼を主人と呼んだ。学位はなかったが、彼らはその人を先生と呼んだ。薬はなかったが.....あ”〜、もちろんでしょう。”ワクチンはありません!”一拍手喝采一 それは彼が言ったことではなく、私が付け加えました。・・・薬はなかったが、彼らはその人を癒しの人と呼んだ。彼には軍隊がなかったが、王たちは彼を恐れた。彼は軍事的な戦いには勝てなかったが、世を征した。彼は犯罪を犯していなかったのに、彼らは彼を十字

架につけた。彼は墓に葬られたが、今日も生きている。彼の名前はイエスである。」一拍手喝采一
よろしければ、マタイの福音書に記されている、いくつかの興味深い詳細に注目していただきたいと思
います。そうすることで、私にとっての疑問に答えることができたらと思っています。当時起こったこと
が、実際に今起こっているのはなぜか？ という質問に答えたいと思います。すなわち、混乱と、あえて
言えば、イエスに関する分裂についてです。特に、弟子たちがイエスに、何を期待していたかというこ
です。ここに真理があります。物事は、彼らが期待していたように、彼らが考えていたようには行きま
せんでした。実際のところは、彼らはイエスがローマの圧政を倒し、地上に、御自分の王国を築くこと
を強く期待していたのです。完全な十字架の復活の事でしょうか？ いいえ、違います。このような混
乱や困惑は、他の福音書にも見られ、十字架にかけられたことも、間違いなく復活したことも、彼らに
とって、全く意味がないとされています。ルカの福音書第 24 章 11 節。ここは、女たちに御使
いが現れる場面です。弟子たちは、女たちに言われても、彼女たちを信じなかったと言われ
ています。その理由はこうです。彼女たちの話が、彼らにとっては、たわごとのように思
えたからです。そこで御使いは女たちに言いました。

「急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなた
がたより先にガリラヤに行かれます。』」

そこで、ガリラヤに向かって進み、そこに着いてから、弟子たちに主がよみがえったことを伝
えます。弟子たちは、言いました。「まさか、そんなはずはない、たわごとだ」と。

ヨハネの福音書第 20 章 9 節には、

「彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していな
かった。」とあります。

マタイの福音第 16 章には、弟子たちに、ご自分の十字架の死と、よみがえりを伝えた、イエ
スの記録があります。これは彼らが、ピリポ・カイザリヤにいるときの話です。しかしペテロは、
後で見るように、そのことに触れただけでも、考えただけでも、主に対して非常に腹を立
てます。21~23 節では、

「そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行って、長老たち、祭司長たち、律法学者
たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならないことを、
弟子たちに示し始められた。」一マタイの福音書 16 章 21 節一

「すると、ペテロはイエスをわきにお連れして、いさめ始めた。」一マタイの福音書 16 章 22 節 a一

皆さん想像できますか？ つまり、その場面を思い浮かべてみてください。さて、一緒にイスラ
エルに行ったことのある方は、このピリポ・カイザリヤという場所を覚えているでしょうが、
その町は、とても邪悪な場所なのです。イエスはそこに弟子を連れて行き、十字架にかけ
られた後、よみがえらなければならない、ということを説明しておられます。そのシーンを
思い浮かべてみてください。イエスは仰いました。

「私は十字架にかけられることになる。引き渡される。私は死んで葬られ、死からよみが
えります。」と。ここでペテロです。皆さん、ペテロを愛さなければなりません。私は
ペテロが好きです、本当に大好きです。彼は「ちょっと待ってください。」彼はイエス
様に「こっちに来なさい。」と言ったんですね。彼はイエスを脇に連れて行って、さら
っと言っただけではないのです。「イエス様、こちらに来てください。」と言って、
イエス様を叱っているのです。

彼がイエスに、なんと行ったか知っていますか？ ここに記録があります。

「主よ、とんでもないことです。そんなことがあなたに起こるはずがありません。」—マタイの福音書 16章 22 節 b—

私の目の黒いうちは、そうはさせません。

「しかし、イエスは振り向いてペテロに言われた。『下がれ、サタン。あなたは、わたしをつまずかせるものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。』」—マタイの福音書 16章 23 節—
ワオ...。イエス様を叱ったから、こうなったのでしょうか。マタイ 28 章 17 節では、彼らの混乱の詳細が書かれています。ペテロはまだ理解していませんでした。マタイ 28 章 17 節では、ガリラヤでイエス様を見た後、まだ疑う者がいたと書かれています。「疑う」という言葉の原語には、不確かさ、ためらいという意味が含まれており、彼らはまだそのことを理解できず、非常に混乱していたのです。特にペテロにとっては、こんな事態になることを望んでもいなかったし、予想もしていなかったので、絶対的なショックを受け、理解するどころか、把握することもできなかったと言わせて頂きます。弟子たちが、イエスが十字架にかけられた後、恐怖のあまり身を隠してしまうのも、そのためだと思います。ペテロが、十字架にかけられる前にイエスを否定した理由もそこにあります。また、バプテスマのヨハネでさえ、--ここでバプテスマのヨハネの話をして。-- 彼自身理解できず、イエスが救い主であるかどうかを疑いました。彼が疑った理由は、イエスが自分を牢獄から解放して下さると完全に期待していたからです。そしてイエスは、ヨハネが考えていたようにはなさらず、ヨハネには理解できませんでした。そこで彼は、何人かの弟子をイエスのもとに送り込み、イエスにこのことを尋ねます。それがマタイの福音書 11 章 2~6 節に記されています。

「さて、牢獄でキリストのみわざについて聞いたヨハネは、自分の弟子たちを通じて」—マタイの福音書 11 章 2 節—

「イエスにこう言い送った。『おいでになるはずの方はあなたですか。それとも、別の方を待つべきでしょうか。』」—マタイの福音書 11 章 3 節—

イエスの返答が 4 節にあり、非常に興味深いです。

「イエスは彼らに答えられた。『あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしていることをヨハネに伝えなさい。』」—マタイの福音書 11 章 4 節—

「目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツァラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。」—マタイの福音書 11 章 5 節—

そして、イエスはこう言います。

「だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。』」—マタイの福音書 11 章 6 節—

あえて言えばヨハネは、イエスが自分を牢獄から救い出されないことにとっても腹を立て、その理由がわからず傷つきました。ペテロや他の弟子たちのように、イエスが、なぜ十字架につけられ、復活しなければならなかったのが理解できずショックを受けていたのと同様です。こんにち多くの人が、自分が期待していたことを主がしてくださらなかったために、落ち込み、傷つき、ショックを受ける同様の傾向を持っていると思います。ありがたいことに、主は、どんなに優れた人でも、大きな疑いと恐れの中には、信仰の危機に陥ることがあることを理解しておられます。イエスがバプテスマのヨハネの疑問を叱るのではなく、その偉大さを褒め称えてくださったことは、とても心強いことです。もし今日ここで、または

オンラインの方で、恐怖で麻痺していたり、疑いに満ちていたりするなら、元気を出してください。励まされてください。「ええ...でも、本当にひどい状態で、私の祈りが天井から跳ね返るような感じで、主をとても遠くに感じるのです...」主は知っておられます。主は、知ってくださっています。

「そうなのですが、私は主が_____をして下さると期待していたのですが、主はそうされませんでした。なぜなのか、私にはわかりません。理解できません。」

さて、ここでマタイの福音書(28章)に書かれているもう一つの詳細を紹介しましょう。これは、7節と10節の2つの節に書かれていて、最初に読むと簡単に見逃してしまいます。7節で御使いはマリアに、「急いで行って弟子たちにイエスがよみがえったことを伝えるように」言いましたが、それだけではありません。それだけではなく、「イエスは死からよみがえられ、そして、ガリラヤに向かっておられます。」と伝えてます。お～そして10節では、イエスご自身が彼女らに会い、「恐れることはない」と仰います。聖書の中で、主が誰かに「恐れるな」と仰っている箇所を読むと、それは彼らが恐れていたことを意味しているので、とても励まされます。意味が深いですね? 恐れていないならば、主はなぜ彼らにそう仰るのでしょうか。「牧師さん、何が言いたいのですか?」「何がポイントか分かったかと、聞いているのですか、牧師さん?」はい、そうです。すぐに思いつきますので、ちょっと待ってください。私が言いたいのは、主は私たちの恐れをすべて知っておられます。しかし彼は私たちに、恐れを霊を与えてはくれません。私たちは勇気を持ち、恐れてはいけません。

そこで、「イエスは言われた。『恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。』」(マタイ 28:10)

これで2回目です。興味深い詳細ですね。なぜガリラヤに行くのですか? なぜ聖霊は、このイエス・キリストの復活の記述とともに、この詳細を聖書に記載することが必要で、重要だと思われたのか、考えたことはありますか? 興味深いのは、イエスが最後の晩餐の時に、十字架にかけられることによって、みんながイエスを見捨てるだろうと、前もって仰っていたことです。しかし、復活した後、彼らに先駆けてガリラヤに行かれるのです。どうしても、ガリラヤに行かないとならないのですね? これはもう3回目です。最後の晩餐の時、逮捕された夜、そしてその後の十字架と復活の時。イエスは彼らにこう仰っています。「これから起こる事に、あなたがたに準備していることの為に、あなたがたを備えているのです。」「これから起こることは、皆がそのために挫折したり、逃げ出してしまうような恐怖を生むことになります。」このことは、マタイの福音書26章31節から32節に書かれていますが、この箇所に戻りたいので、そこに指を置いておいてください。

マタイの福音書 26章

「そのとき、イエスは弟子たちに言われた。『あなたがたはみな、今夜わたしにつまずきます。(それは実際預言です)『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。』—31節—

「しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」—32節—

ガリラヤはその場所です。イエスは彼らに、前もってそれを伝えておられるのです。さて、問題はその理由です。なぜイエスは、このような事態の後、ガリラヤで会うことを前もって伝えられたのでしょうか? これには、2つ以上の理由があると思っています。第一の理由は、彼らがイエスに初めて出会ったガリラヤに戻る必要があったからです。つまり、黙示録でイエスがヨハネに書かせたエペソにある教会のように、彼らは初めの愛を捨てたのです。これは、黙示録第2章4~5節で、7つの教会の内の最初の教会で

あるエペソの教会に対して記録されています。イエスがヨハネにこう書かせられます。

ヨハネの黙示録 2 章

「けれども、あなたには責めるべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。」(失ったのではなく、離れた) -2章4節-

「だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。そうせず、悔い改めないなら、わたしはあなたのところに行って、あなたの燭台をその場所から取り除く。」-2章5節-

ある人は、これを 3R と呼んでいます。思い出して、悔い改めて、繰り返す。(Remember, Repent, Repeat.)
これが、イエスが彼らに仰っていることだと思えます。初めて出会ったときのことを覚えていますか (Remember)? と仰っているのです。悔い改める (Repent) とは、180 度向き直るという事です。繰り返す (Repeat) とは、初めにうまくいったこと、初めの行いに戻るという意味です。思い出して、悔い改めて、繰り返す。イエスのもとに戻るのです。あなたがイエスに出会ったあの場所に戻りなさい。初めの愛だったあの場所に戻りなさい。皆さん、覚えていますか? どんな感じだったか覚えていますか? ほ～ 飽きることがありませんでした。聖書が手放せませんでした。主を賛美し、礼拝し、感謝することをやめられませんでした。時に頬に涙を流しながら。しかしその後、人生は忙しくなり、複雑になり、ある時から、あなたと主との間に、いろいろなものが入り込んできて...これが 2 つ目の理由につながります。それは、イエスはもちろん予見されていて、彼らを和解させ、回復させるだけでなく、彼らを造り変えようとされたのです。特にペテロを。ペテロは、イエスを見捨てただけでなく、イエスを否定したことで、イエスが怒っておられると思っていました。復活後の出来事を記した「マルコの福音書」には、この点でペテロに関する別の興味深い記述があります。それは **マルコの福音書 16 章** にあります。6 節と 7 節を読みたいと思います。

「青年は言った。『驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょう。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。』 -マルコ 16 章 6 節-

さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。』 -マルコ 16 章 7 節 a-

何ですって?? 「こんにちは! 皆様、そして JD。」って感じですね。今回はそれとは違います。というよりも、こうです。「イエスは復活したので、ここにはいません。遺体が安置されていた場所を、ご覧なさい。さあここで必要なのは、早く行って、弟子たち、特にペテロに伝えてください。」特にペテロは、この話を聞く必要があるからです。

『イエスは、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。前に言われたとおり、そこでお会い出来ます』と。』 -マルコ 16 章 7 節 b-

私は個人的に、ペテロはこれを聞いて、

イエスがガリラヤに先に行かれると聞いた時点で、点と点が繋がったのではないかと思います。

その理由は、マタイの福音書 26 章にあります。それでは、31 節から始めましょう。

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜わたしにつまずきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。 -マタイ 26 章 31 節-

しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。 -マタイ 26 章 32 節-

さて、これは最後の晩餐で、イエスが彼らにこう仰ったときのことです。そして 33 節で

「すると、ペテロはイエスに答えた。『たとえ皆があなたにつまずいても、私は決してつまずきません。』」

ーマタイ 26 章 33 節ー

「イエスは彼に言われた。『まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言います。』」 ーマタイ 26 章 34 節ー

「(しかし) ペテロは言った。『たとえ、あなたと一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどは決して申しません。』」 ーマタイ 26 章 35 節ー

他の弟子たちに”無礼”です。「彼らはあなたを見捨てるかもしれませんが。私は絶対にしません。」そして 35 節の最後の「弟子たちはみな同じように言った。」という詳細に気付かれたでしょうか。想像するに、ここでペテロが抗議しているのではないのでしょうか。「もちろん、彼らはあなたを見捨てるかもしれませんが、私は決してあなたを見捨てません。」その様子を想像できますか？これが最後の晩餐ですか？ここで、他の弟子たちが「ペテロよ、私たちがあなたを見捨てたりはしませんよ、イエス様、なぜ彼がそんなことを言うのかわかりません。」と言っています。しかしイエスが、自分が十字架にかけられると、皆がご自分を見捨てて恐れて逃げ出すだろうと、話し終えられたことは興味深いのではないのでしょうか。ルカの福音書 22 章、54～62 節を読んでみましょう。

「彼らはイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペテロは遠く離れてついて行った。」(興味深いです) ールカの福音書 22 章 54 節ー

「人々が中庭の真ん中に火をたいて、座り込んでいたので、ペテロも中に交じって腰を下ろした。」 ールカの福音書 22 章 55 節ー

彼はイエスから遠く離れていて、遠くから追いかけていて、今は中庭の火のそばで暖をとっているようなものです。

「すると、ある召使いの女が、明かりの近くに座っているペテロを目にし、じっと見つめて言った。『この人も、イエスと一緒にいました。』」 ールカの福音書 22 章 56 節ー

「しかし、ペテロはそれを否定して、『いや、私はその人を知らない』と言った。」 ールカの福音書 22 章 57 節ー

「しばらくして、他の男が彼を見て言った。『あなたも彼らの仲間だ。』しかし、ペテロは『いや、違う』と言った。」 ールカの福音書 22 章 58 節ー

「それから一時間ほどたつと、(1 時間と言われていますが、なぜ彼はまだそこにいるのでしょうか) また別の男が強く主張した。『確かにこの人も彼と一緒にだった。ガリラヤ人だから。』」 ールカの福音書 22 章 59 節ー

「しかしペテロは、『あなたの言っていることは分からない』と言った。...

他の福音書では「彼は誓った」と書かれています。呪いの言葉を使っているとは思えませんが、誓って私は彼を知らないと言っているのです。

...するとすぐ彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。」 ールカの福音書 22 章 60 節ー

61 節は、私の心を掴みます。

「主は振り向いてペテロを見つめられた。(目を合わせた)...救い主の目に怒りの表情があったとは一瞬たりとも思わないでください。このような表情があったとは決して考えないでください。「ペテロよ、私はそう言ったではないか。」「私を否定したではないか。」「どうしてそんなことをしたのだ。」いいえ違います。

「主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、『今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知ら

ないといます』と言われた主のことばを思い出した。」 ールカの福音書 22 章 61 節ー

「そして、外に出て行って激しく泣いた。」 ールカの福音書 22 章 62 節ー

ペテロ は、考えられないようなことをしてしまい、とてもショックを受けています。彼はイエスを恥じ、イエスを知っていたことさえ否定し、間違いなくイエスが自分と関わりたくないと確信しています。彼にとっては、自分の世界が崩壊したようなものです。ですから、イエスがガリラヤに来られると聞いたとき、彼はおそらく「私に話したいだろうか」と思ったのではないのでしょうか。「やばい、きっとそう思っておられる。」「行かない方がいいかもしれない。」「なんと、自分は主を3度も否定したのだから。」「そして、主は私と話したがっている。私は非難されるんだ。。。」「ガリラヤに行くべきなのだろうか。」「しかし、彼は行きます。そして行ったことをとても喜んでいるのです。なぜなら、主はペテロを見捨てておられないからです。しかしペテロはまだ、イエスが復活後に自分を回復させて下さることを知りません。主はペテロを回復させただけでなく、ペテロに福音を伝える最初の者にされました。使徒の働きにも記録されていますが、その日、3000人が救われました。ペテロ～！このことで、私が言いたいのはここです。私たちはペテロのように、自分が主を裏切ったから主から離れてしまったのだと考える傾向があります。そしてそのためにも、主に立ち返る必要があります。私は、最初に述べたように締めくくり、また簡潔に言いたいと思います。こんにち世界で起こっているすべてを抱える私たち全員が、私たちが最初に主に会った場所である私たちのガリラヤで、イエスのもとに立ち返る必要があります。そこで私たちは、イエスに会うだけでなく、イエスの御声を聞くのです。私たちがイエスのもとへ行くべき時があるとすれば、まだ時間のある今だということに同意していただけたらと思います。イエスを知っている私たちにとって、イエスとの親密な関係のために、イエスに戻る必要があります。彼は、あなたに伝えたいことがあります。しかし、あなたがガリラヤに... 初めて彼に出会った場所、初めの愛に行くまでは、彼には御出来になられません。あなたと彼の二人だけだったときはいつだったのでしょうか。お～、そこに戻るのが早ければ早いほどいいですね。「そうだけど、牧師さん、私が何をしたか知らないでしょう。」何をされたのですか？ ペテロはどうでしょう？ 彼が何をしたかご存知でしょう？「はい。でも私は、かなりひどいです。」「いいえ。彼はあなたが彼のもとに戻ってくるのを待っておられます。」最近、世界で起きていることを見て、実はよくこのことを考えていたのですが、もちろん今日の預言アップデートは、そんな感じなので告白しなければなりません。私はただ、よりよい言葉が見つかりませんが、すべての出来事の速さに戸惑います。この60日ほどの間に、すべてのことが急速に進んでいることを実感しています。そして、それはこんな感じです。主が言っているように、「私たちは話す必要がある。話せるかい？」「はい、話し合う必要があります。」「あなたに見せたいものがあります。あなたが見なければならぬものです。」あなたに伝えたいことがあります。あなたは聞く必要があるのです。今起きていることはもっと酷いことになるからです。」復活の日曜日の説教としてはどうでしょうか。「うわー、牧師さん、控えてもらえませんか？」「いいえ、できません！」私はそうしたいのです。信じてください。私は、毎週、毎週、私の特権である通り、この説教壇に立って、皆さんが聞きたいことを話せば、それ以上のことはないと思っています。「大丈夫ですよ～。全部うまく行きますよ～。」「皆さん大丈夫、私も大丈夫、みんな大丈夫、みんなでハグをしましょう。」と。そうではないので、私にはできません。起ころうとしていることは、よろしくないのです！皆さん、イエスを人々に、人々をイエスに導かなければなりません。今すぐ、今すぐ、今すぐに。イエスを知らない人のために、ちょっと話してよろしいですか？ 仮定の話ではありません。もしかしたら今日、この教会の礼拝に来ておられ、またはオンラインで見ている、あなたはイエスをご存

知らない。とても愛情を込めて、堅固に謙虚に言います。”あなたは救われる必要があります。”イエスのも
とに行き、救われてください。今すぐ。今。ガリラヤに行ってください。そんな風に言わせてください。
そこで彼は良い知らせを持って、待っておられます。良い知らせ。良い知らせとは何でしょうか？それは
福音です。福音とは何かご存知ですか？

「コリント人への手紙 第一 第 15 章 1-5 節」にあります。使徒パウロはこう言っています。

「兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入
れ、その福音によって立っているのです。」—コリント人への手紙 第一 15 章 1 節—

「私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって
救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。」—コリント人への
手紙 第一 15 章 2 節—

「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリス
トは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、」—コリント人への手紙 第一 15
章 3 節—

「また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、」—コリント
人への手紙 第一 15 章 4 節—

(そしてパウロは 5 節でこう言っています。)

「また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。」—コリント人への手紙 第一 15 章 5 節—
待ってください、誰ですか？ (笑)～ ペテロに！ ペテロにですよ～！「ペテロにも現れ、それから 12
人にも現れました。」うわー、鳥肌ですね。言い換えれば、特にペテロは、良い知らせを聞く必要があ
ったのです。神はあなたに怒っていません、ペテロ。神はあなたに怒っていませんよ、皆さん。ご自身の全
御怒りを、彼のひとり子に課されたのです。

「神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として
滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」—ヨハネの福音書 3:16—

ああ、もう何年も前からだと思いますが、私たちはいつも締めくくりに、これは、コロナ前の「聖書の学
び」で実際に行っていました。「救いの ABC」で締めくくっていました。そして、今日はそれをしたとい
います。これにはいくつかの理由がありますが、まず第一に、私は何も仮定していません今日ここにお
られるあなたは、主の御名を呼びもとめたことがないかもしれません。あるいは、確信がなく、あなたは
自信があられない。でも確信出来ます。ヨハネが

「永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。」(第一ヨハネ 5:13)

と言っているのです。陪審員はもういません。判決は出ています。彼は死からよみがえり、あなたは救わ
れ、自分が救われたことを知ることができるのです。どっちつかずで、行ったり来たりしてわからないの
ではありません。そうではなく、自分が救われていることを知ることができるのです。これは補足的に言
いますが、——聖霊からだと思えます。私たちは今日、預言アップデートで人工知能とトランスヒューマ
ニズムに関して話しました。ご存知、復活の日曜日には、そのようなことが話題になります。(笑)ー
しかし、なぜ彼らは人間と AI を融合させたいのか、ご存知でしょうか？ なぜなら彼らは、悪魔である
サタンを信じており、サタンは彼らに永遠の命を与え、神になることができると言っているからです。そ
れが狙いです。考えてみてください。彼らには、あれだけお金があります。つまり、彼らはすごくお金持
ちなんです。しかし、彼らが持っていないものが何ご存知ですか？ イエスを知っている私たちが持つ

ているもの、「永遠のいのち」です。ほ～、お金があっても、いざ自分が死ぬときにはどうするのでしょうか。悪魔がいて、私は人工知能だと思います。悪魔的だと思います。サタンが彼らに、そのような知性を与えているのです。そのような知性は人間には思いつかないからです。そこでサタンがやって来て、園でやったように「あなたは神になれる、永遠に生きることができる。」と言います。それが彼らがやっていることであり、それがこれをしている理由です。なぜこのようなことを言うのかというと、私たちは、彼らが持っていないもの、永遠の命を持つことができるのを知っています。

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるでしょうか。」—マタイの福音書 16 章 26 節—

これが良い知らせです。イエスを必要としている裕福な悪人たちは、今からでも遅くないと思います。私がそういうのは、まだ人間なのかどうかもわからないからです。彼らは既にトランスヒューマンかもしれませんが、もし彼らがまだ人間であり、人間の DNA なら、彼らは救われ、永遠の命を得ることができます。それは子どもにでも分かるシンプルさで ABC のようにシンプルです。ですから「救いの ABC」をします。

A：自分が神に背いた罪びとであるのを、また自分には救い主が必要であると Admit/認める または、Acknowledge/認識する。ローマ人への手紙 3 章 10 節にはこう書かれています。

「正しい者はいない。一人もいない。」

ローマ人への手紙 3 章 23 節がその理由を教えています。

「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっている。」

私たちは生まれながらにして罪びとなのです。ですから、イエスが仰るように、神の御国に入るためには、新生しなければならぬのです。さて、ローマ人への手紙 6 章 23 節が興味深いのは、先に悪い知らせがあり、次に良い知らせがあるのです。そしてこのように言いたいのですが、適切な英語ではないことは承知していますので、オフィスにメールをしないでください。しかし、悪い知らせが悪ければ悪いほど、良い知らせがさらにもっと良くなります。では、悪い知らせとは何でしょうか？ それは本当に悪いのです。=死です。それは悪い知らせです。ああ～それは私の一日、一週間、私の人生を台無しにします。本当に、死ですか？ はい。

「罪の報酬は死です。」(ローマ 6:23a)

それは悪い知らせです。すべての人が罪を犯したので、私たちはみな、死刑を宣告されています。それは悪い知らせです。そしてここでより良い、良い知らせがあります。

「神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ 6:23b)

キーワード：賜物（贈り物）贈り物をもらったときのことを考えてみましょう。それには、深い意味があります。それは贈り物です。あなたは、お金を払っていません。お金を払ってれば贈り物ではなく、購入したものです。いいえ、“彼が”全額支払ってくださいました。彼はご自分の血潮で私たちを買い取ってくださいましたのです。私たちは自分のものではなく、代価を払って購入されたのです。彼が代価を払って、私たちを買い戻してくださいました。そして、これが贈り物です。永遠のいのち = それ贈り物です！ DNA や AI など改造する必要がないことを誰かが知らせてくれればいいのですが。ただ、イエスのもとへ来てください。それは贈り物です。大金を手にしたのはわかりますが、これは買えません。試してみてください。できませんよ。すでに支払い済みです。それはいくらだったのですか？ ああ、イエスはすべてを犠牲にされました。私たちへの永遠のいのちのために、ご自分の命を犠牲にされたのです。

B：あなたの心で、イエス・キリストが主であると 神がイエスを死からよみがえらせたことを、Believe/信じる。ローマ人への手紙 10 章 9-10 節、

「心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマ 10:9)

具体的で完全な「(救わ)れる」に注目してください。救われるかもしれない、救われるべきだ、状況次第で救われうる、ではありません。それって、イエスが十字架上で「完了した」(ヨハネ 19:30)と仰ったことに、続きを加え、もし～～なら、ただし～～しかし～～と言っていることになります。違います。

「完了した。」(ヨハネ 19:30) フィニート (イタリア語) ハラス (アラビア語) アラビア語はいいですよ。とても厳しいです。「完了した。」(ヨハネ 19:30) 完了しました。あなたは”救われます” 完。

そして最後に C です。C：主の御名を Call/呼び求める、Confess/告白する。

再度、ローマ人への手紙 10 章 9-10 節、

「口でイエスは主であると公に言い表わし(confess)、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマ 10:9)

私たちは好きなだけ叫ぶことができるからです。彼はよみがえりました！！！！しかし、心の中で「よみがえった」と信じていなければ、救われないのです。彼は死を打ち破ったのです。主が死からよみがえったから、私たちの罪は完全には贖われたのです。

「神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマ 10:9)

そしてその理由は、

「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」(ローマ 10:10)

最後に、ローマ人の手紙 10 章 13 節。

「主の御名を呼び求める者はみな ”救われる。”」(ローマ 10:13)

主の御名を呼び求め、救われるのに、復活の日曜日ほど良い日はないと思います。もしあなたが一度も主の御名を呼び求めたことがないなら、今日、あなたに切に願います。心で信じ、口で告白し、罪の赦しのために主を信頼してください。これ以外に何と書いていいかわかりません。しかし、いったい何を考えているのですか？ 世の中には様々なことがあります、なぜ永遠の命を手に入れるという人生で最も重要な決断を遅らせるのですか？ さてでは、今日の特別な日の締めくくりに特別な曲"The Old Rugged cross"を、娘のサビアと、伴奏者ジャンヌ・マウさんをお願いします。(音楽)

遠く離れた丘の上の、古い荒々しい十字架

苦しみと恥の象徴

私はその古い十字架を愛す

最愛で最良の人が

迷える罪びとのために死なれた場所

私はその古い十字架を大切にす

最後に勝利を得るまで

私はその古びた十字架にしがみつき

いつの日かそれを王冠と交換しよう

(ハワイ語)

私はその古い十字架を大切にす

最後に勝利を得るまで

私はその古びた十字架にしがみつき

いつの日かそれを王冠と交換しよう

私はその古びた十字架にしがみつき

いつの日かそれを王冠と交換しよう

復活の日曜日、おめでとうございます！一拍手喝采一

ご起立ください。では祈りましょう。

天のお父様、あの十字架に感謝します。墓が空っぽであることに感謝します。十字架につけられ、そして何よりもよみがえられたことに感謝します。主よ、私たちは今日、復活を祝います。そして主よ、私たちのために、私たちの代わりに十字架に従ってくださったことを感謝します。主よもう一度、救われるために一度もあなたに呼び求めたことのない全ての方に、今日が彼らの救いの日となるよう祈ります。そして主よ、あなたを知り、恐らく長年あなたと共に歩んできた私たち多くのためにも、今日、私たちが初めてあなたに出会った私たちのガリラヤに戻り、私たちの初めの愛、あなたのもとに戻ることができるようになります。イエスの御名のもとに祈ります。

アーメン、アーメン。

神の祝福がありますように！ 祝福された復活の日曜日をお過ごしください。[拍手]

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7